

加速するデジタル技術と我々が背負ったWebリスク(1)

文 佐々木寿郎

text by Toshiro Sasaki

「まるでSF小説のようだ」

人工知能(AI)を始めとする、デジタル技術についての報道を見るにつけ、私はそのように感じます。

人間の質間に適切な回答を返す人形や、歴史的な画家の筆致を精巧に再現する機械、運転手がハンドルを握らなくても目的地まで運んでくれる車に空飛ぶ宅配便。月並みな表現ですが、我々が子どものころに夢見た世界が、いよいよ実現しつつあるようです。

しかし、デジタル技術が進歩したことにより、これまで我々が夢にも思わなかった危険に脅かされていることは、皮肉と言わざるを得ません。

二〇一八年五月十七日、セキュリティ企業のファイア・アイが衝撃的な調査結果を公開しました。「日本人の個人情報二億件以上が含まれたファイルを中国の脅威アクターが販売目的で広告掲載」と題した記事には、日本人のものとみられる大量の個人情報ネット上

の闇サイト(ダークウェブ)で取引されていたと記されていたのです。具体的には氏名、認証情報(ID・パスワード)、メールアドレス、生年月日、電話番号、住所といった情報が取引されていたといえます。

実際にはデータに一部重複があり、二億件に満たないとのことですが。しかし日本の人口が約一億三〇〇〇万人であることを鑑みれば、これほど膨大な個人情報が取引されていたという事実にはやはり目を見張ります。

ダークウェブの元になった通信技術も、もともとは高い匿名性を利用して、国家の機密情報や大学の非公開論文をやり取りするために開発されたものです。その技術が悪用された結果、違法取引の温床となったのです。

歴史をひもといても、新しい技術に新しい脅威はつきものです。デジタル技術や通信技術の進歩が目覚ましい昨今、我々が曝されているWebリスク

も日々脅威を増しています。

目まぐるしく状況が変化するデジタル分野において、自社だけで十分な対策を行うことは至難の業です。弊社の様なWebリスク対策を生業とする企業は、日夜デジタル技術の改善と研究を行っています

ので、不安に思われる方は是非一度ご相談ください。

Profile

シエンプレ株式会社 代表取締役社長
1976年、長野県生まれ
2009年 シエンプレ株式会社取締役に就任し、ネット上の風評被害対策、webリスク対策を立ち上げる
2012年 同社代表取締役に就任
2014年より警察庁のサイバーパトロール業務を受託し、
2015年には業界団体一般社団法人WEBリスク対策事業者協会を立ち上げ、代表理事に就任。業界の健全化に取り組んでいる

SIEMPLE

